

考え、かかわり、学びをつなぐ 力を持った 児童の育成
～思考を深める「振り返り=ひとり学び」の充実(3年次)～

振り返り ～あるある現状～
・プラスαのつけたし的に
・余った時間に(感想だけ)
・時間はないけど書いといて…
(後で集めるから)

1. なぜ「振り返り」か？

必然性のある学習課題設定の工夫を図ったことで、子どもの意識の連続性を大切にした授業の構造化ができた。自分の考えを持ち、主体的に課題に取り組もうとする子どもたちに、さらに、「対象」「目的」「ツール」を意図的に関連付けて、かかわりのしかけを工夫することで子どもたちの思考に広がりが見られた。

しかし、さらに一人ひとりの思考を深める為には学習の最終段階(本時や単元などくり方は様々)で「ひとり学び」の時間を保障し、熟考する場面が必要だと感じられた。振り返りについて、時間の保障さえ十分でない現状をふまえ、1 単位時間の授業や単元設計の中で、優先順位を上げることが必要である。そして、思考を深めるための振り返りの視点や方法について研究を進めていく。

①教師の授業改善

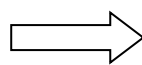
- ・授業改善のために
- ・質的評価の材料として

振り返りは学びの当事者意識を高める。
= 振り返り学習は主体的な学びの要素を含む。

②子どもたちの自ら学ぶ力(考え、かかわり、学びをつなぐ力)の育成

(A) 学習内容との関連付け(学習内容についての振り返り)

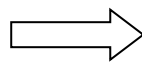
- ・過去の学習内容や他教科と
- ・身近な生活と



学びの価値や楽しさを実感させる。

(B) 自己の学びの変容の自覚(学習活動(学び方)についての振り返り)

- ・過去の学び方の活かし方
- ・多様な追究の方法
- ・友だちとの意見交換の仕方



学び方の選択肢を増やす。
学びの手ごたえをつかませる。

2. 振り返り学習(活動)の充実に向けたステップ

ステップ①

時間の保障→量

小さな振り返り

毎時間、短い時間でもとる。振り返り習慣を。

深い振り返り

まとまりのタイミングで「これまでの授業・学び」を問い返し価値づける。

ステップ②

視点を提示

- ・大切なこと
- ・よりよい学び方
- ・試行錯誤したこと
- ・参考になった友だちの意見
- ・ねらい達成のきっかけ
- ・不十分だったこと
- ・今後生かせそうなこと
- ・つながり・関連
- ・新しい疑問・課題

ステップ③

質の向上

- ・良い振り返りの共有
- ・振り返りに価値づけ
問い返し

※必然性のある学習課題の設定、授業の構造化、かかわりのしかけが効果的であるかの検証。

※教師が振り返りの例を具体的にイメージし、書いてみることは必須。

3. 振り返り活動における 発問・指示の例

- | | |
|---------|--|
| 分量から | 「5文で書きましょう。」 |
| 説明的に | 「休んでいる友だちに今日の学習を説明するように書きましょう。」 |
| 次時につなげる | 「今日学習したことで日常生活に生かせることがあるかな。」
「今日の学習で不思議に思ったことや疑問に思ったことを書きましょう。」 |

- A. この学習で意識したこと(大切だと思ったこと)を書きましょう。
- B. この学習を通してできるようになったことを書きましょう。
- C. 課題を解決するために試行錯誤したことを書きましょう。
- D. 参考となった友だちの発言や助言について書きましょう。
- E. 何をきっかけにしてねらいを達成したのかを書きましょう。
- F. 工夫しようとしたが、十分ではなかったことを書きましょう。
- G. この学習で今後の学習や生活に生かせそうなことを書きましょう。
- H. もっと考えてみたいこと、新たに疑問に思ったことを書きましょう。

◎習得に関すること

「～がわかった。」

「～ができるようになった。」

「Aさんの～という考えを聞いて…。」

◎活用・探究に関すること

「(他教科の)～の場面で使うと便利だと思ふ…。」

「さらに、～の場合はどうなるのか考えてみたい。」 等

☆そもそも「振り返り」とは？

「まとめ」との違いを意識して単元計画の中で設定する。学習内容に即して目的をもって 視点を示す ことが大切。

<「まとめ」との違い>

まとめ

「めあて」に対する答えや結論を整理したり、確認したりする活動

振り返り

本時の学習全体を見返して学習内容との関連付けを図ったり、自己の学びの変容を自覚したりする活動

NG 例

- ×感想(楽しかった)
- ×規律の順守(まじめにできた)
- ×まとめを写しただけ

<例>

めあて 折れ線グラフのどこに注目すれば変わり方を調べられるだろう。



まとめ 折れ線グラフの傾きに注目すれば変わり方の大小を調べることができる。

振り返り

学習内容について

・傾きが急だと変わり方が大きいとすぐわかるので折れ線グラフは便利だと思った。

他教科との関連で

・理科で晴れの日と曇りの日の気温の変化を調べる時、折れ線グラフを使うと分かりやすかった。

友だちとのかかわりから

・Aさんの「時間がつながっているときに折れ線グラフを使うと良い」という意見を聞いて、なるほどと思いました。

<目的>

子ども

- ・何が分かるようになったのか
　　<子どもに学びの成果を実感させる>
- ・何ができるようになったのか
　　どんな変容があったのか
　　<子どもの学びを確かめさせる>
- ・もっと考えたいこと
　　<学んだことや意欲・課題を次の授業に生かす>

教師

- ・授業改善に役立つ。
- ・質を評価する重要なデータになりえる。

<意義>

- ・自信を持つことができる。
- ・あいまいな点が明確になる。
- ・学び方が分かる。
- ・定着が図られる。
- ・応用・発展の機会となる。
- ・新たな問いを持つ機会となる。

これは、
子どもに伝える。

指示の工夫

- ・3文で書きましょう。
- ・説明するように書きましょう。
- ・授業をなぞってアウトプットするように…
　　(板書の構造化から)

<視点> ※各教科の見方・考え方を軸として。

- A. この学習で意識したこと(大切だと思ったこと)を書きましょう。
- B. この学習を通してできるようになったことを書きましょう。
- C. 課題を解決するために試行錯誤したことを書きましょう。
- D. 参考となった友だちの発言や助言について書きましょう。
- E. 何をきっかけにしてねらいを達成したのかを書きましょう。
- F. 工夫しようとしたが、十分ではなかったことを書きましょう。
- G. この学習で今後の学習や生活に生かせそうなことを書きましょう。
- H. もっと考えてみたいこと、新たに疑問に思ったことを書きましょう。

キーワード(例)

比べると
共通点は・違いは
具体的には
たとえば
なぜなら
つまり
結局
一言で言うと
そもそも
理想は
さらに

<方法> ツールなど

- ・ノート、ワークシート一体型
- ・ワンページポートフォリオ
- ・段階評価・アンケートタイプ
- ・作文・感想文記述型(ある程度まとまった分量で)
- ・思考ツール型
- ・ICT活用型

<みとり・評価>

教科の見方・考え方を軸にした授業づくりの中で、教師自身が理想の「振り返り」を書き、考察・検討。